

社会－４（第４学年） 実感を伴う言葉で話し合う事例

【学習活動の概要】

<p>1 単元名 水はどこから</p>				
<p>2 単元の目標 ダムや浄水場などの見学・調査や収集した資料を活用し，飲料水の確保にかかわる事業や施設・設備について調べ，これらの対策や事業が地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。</p>				
<p>3 評価規準</p> <p>【社会的事象への関心・意欲・態度】 飲料水の確保にかかわる対策や事業に関心をもち，それを意欲的に調べ，地域社会の一員として節水の取組に協力することの大切さを考えようとしている。</p> <p>【社会的な思考・判断・表現】 飲料水の確保にかかわる対策や事業が，地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを，自分たちの生活と関連付けて考え適切に表現している。</p> <p>【観察・資料活用の技能】 ダムや浄水場の見学やそこで働く人々からの聞き取り調査を行ったり，資料を活用したりして，必要な情報を集めて読み取ったり，調べたことを新聞などにまとめたりしている。</p> <p>【社会的事象についての知識・理解】 飲料水の確保にかかわる対策や事業は，計画的，協力的に進められ，地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。</p>				
<p>4 教材</p> <p>本単元で扱う水は，蛇口をひねるといつでも使用可能な状態にあるように安定供給されることから，その「ありがたみ」を感じながら生活することは少ない。一方で，水は私たちの生活に必要不可欠なものであり，ダムや浄水場などの飲料水の確保にかかわる事業や施設・設備は，重要なライフラインとして位置付けられる。そこで，ダムや浄水場の見学・調査を中心的な活動にし，資料を活用して調べていく活動と併せながら単元を構成する。</p> <p>ダムは，貯水・用水の安定供給・水量調節・河川の保全・水力発電と多くの役割を果たし，我々の安全で健康な生活を支えている。地域で建設中の「津軽ダム」を教材として取り上げることで，地域の人々の生活とダム・浄水場の存在意義を関連付けて考えることができるよう単元設定を行った。</p>				
<p>5 主な学習活動</p> <p>(1) 単元の指導計画(全12時間)</p> <table border="1" data-bbox="244 1514 1406 2056"> <thead> <tr> <th data-bbox="244 1514 951 1585">学習活動</th> <th data-bbox="951 1514 1406 1585">言語活動に関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="244 1585 951 2056"> <ul style="list-style-type: none"> ○浅瀬石川ダムや津軽広域水道企業団総合浄水場の見学計画を立てる。(1) ○浅瀬石川ダムや水道企業団の浄水場を見学し，それぞれの施設の様子や工夫，そこで働く人々の思いや願いについて調べる。(4) ○見学したことを新聞にまとめる。(3) ○ダムの果たす役割について，シミュレーションを通して理解する。(1) 本時 ○ダムを管理している人々の工夫や努力について調べ，まとめる。(1) ○飲料水の確保における様々な課題を調べ，節水について考え，まとめる。(2) </td> <td data-bbox="951 1585 1406 2056"> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットや新聞記事などを資料として示し，予想を記述させたり発表させたりする。 ・聞き取り調査の際は質問事項を文章であらかじめ用意させる。 ・渇水の状況を想起できるようにし，ダムの必要性を説明させる。 ・自分なりのかかわり方について学んだことを基に提案させる。 </td> </tr> </tbody> </table>	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○浅瀬石川ダムや津軽広域水道企業団総合浄水場の見学計画を立てる。(1) ○浅瀬石川ダムや水道企業団の浄水場を見学し，それぞれの施設の様子や工夫，そこで働く人々の思いや願いについて調べる。(4) ○見学したことを新聞にまとめる。(3) ○ダムの果たす役割について，シミュレーションを通して理解する。(1) 本時 ○ダムを管理している人々の工夫や努力について調べ，まとめる。(1) ○飲料水の確保における様々な課題を調べ，節水について考え，まとめる。(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットや新聞記事などを資料として示し，予想を記述させたり発表させたりする。 ・聞き取り調査の際は質問事項を文章であらかじめ用意させる。 ・渇水の状況を想起できるようにし，ダムの必要性を説明させる。 ・自分なりのかかわり方について学んだことを基に提案させる。
学習活動	言語活動に関する指導上の留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ○浅瀬石川ダムや津軽広域水道企業団総合浄水場の見学計画を立てる。(1) ○浅瀬石川ダムや水道企業団の浄水場を見学し，それぞれの施設の様子や工夫，そこで働く人々の思いや願いについて調べる。(4) ○見学したことを新聞にまとめる。(3) ○ダムの果たす役割について，シミュレーションを通して理解する。(1) 本時 ○ダムを管理している人々の工夫や努力について調べ，まとめる。(1) ○飲料水の確保における様々な課題を調べ，節水について考え，まとめる。(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットや新聞記事などを資料として示し，予想を記述させたり発表させたりする。 ・聞き取り調査の際は質問事項を文章であらかじめ用意させる。 ・渇水の状況を想起できるようにし，ダムの必要性を説明させる。 ・自分なりのかかわり方について学んだことを基に提案させる。 			

(2) 本時の学習 (9 / 12)

- ①目標 弘前市の水の使用量の増加に伴う渇水時においても、家庭や農地、河川などに安定して水を供給できるように津軽ダムが建設されていることを分かるようにする。
- ②展開
 - 浅瀬石川ダム見学で分かったことを振り返る。
 - 学習問題「なぜ県内最大の浅瀬石川ダムがあるのに津軽ダムを新しく造ったのだろう」について予想する。
 - 弘前市の人口の変化のグラフや水の使用量のグラフを基にして話し合う。
 - ダムの果たす役割についてシミュレーションを通して「仮説」をノートにまとめる。
 - 新聞記事を活用して事実を確かめ、分かったことをノートにまとめる。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領・社会の第3学年及び第4学年の内容(3)では、「地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えるようにする」、「ア 飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり」「イ これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること」と示されている。また、第3の指導計画作成上の配慮事項として「観察や調査・見学などの体験的な活動やそれに基づく表現活動の一層の充実を図ること」が示されている。『小学校学習指導要領解説 社会編』においては、学年の目標に関する記述として「調べたことや地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考えたことを相手にも分かるように表現することができるようにする」ことが示されている。

本事例では、飲料水の確保にかかわる事業や施設・設備などを取り上げ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持・向上とダムや浄水場の存在を結び付けて考えさせることをねらって単元を設定した。また、飲料水をつくるために必要な資源には限りがあることや、無駄な使い方を見直し有効に利用することが大切であることに気付くようにし、節水の取組に協力しようとする意識の向上をも意図した単元構成とした。

【言語活動の充実の工夫】 —シミュレーション活動により実感を伴う言葉で話し合う—

本時では、それまでの学習で習得した知識や、ダム、浄水場の見学・調査活動を通して学んだこと・記録したことを活用しながら、予想を考えたり、検討したりする活動を設定し、言語活動の充実を図ろうとした。そのために、以下の二つの手だてを考えた。

- 既習の知識との矛盾点に気付かせて話し合わせるようにした。
- シミュレーション活動を通して実感の伴った言葉で理解させるようにした。

児童が「なぜ？」と問い、好奇心をもって探究活動が行えるように、導入段階において、見学して学んだ「浅瀬石川ダムの貯水量は青森県で最も多い」ことと、津軽ダムを建設することを対比的に提示した。そのことにより、もっている知識を活用して原因を考えることを期待した。特に、見学・調査活動で共通に獲得した情報を基に話し合うことで、児童の意見は活発に交換された。

さらに、渇水時における家庭や農地、河川の水の供給量についてとらえさせるため、シミュレーション活動を取り入れた。これは、平時と渇水時、ダムのある場合とない場合をそれぞれ組み合わせて行った。この活動を振り返り、話し合う活動によって、ダムの有用性・必要性を具体的にとらえさせることができた。そして、ライフスタイルの変化によって水の使用量が増え、それに伴って増えた渇水状況においても、水の安定供給ができることをとらえさせ、より実感の伴った自分の言葉による理解へとつなげることができた。